

たくさんの小さな希望が集まる会議

種の絶滅が世界各地でものごい規模で進行してしまいました。これは6千500万年前に恐竜が地球上から姿を消して以来の大事態です。私たちのひいおじさんひいおばあさんは知っていた栽培種の75パーセントが今日はもう見られず。自然の多様性や農業における多様性の喪失も、気候変動と同様に、人類史上最大の乗り越えるべきエコロジー的課題なのです。

生物多様性の保護の対策について190カ国の政府の代表者が交渉する傍ら、5月12から15日まで、地方政府、農業団体や環境団体、開発問題に携わる団体、消費者団体などの草の根イニシアティブの代表者が、現実に即したオルタナティブを議論するために、各大陸や世界の片隅からボンに集合します。

今回の話題の中心となるのは、私たちが生産し消費する食料品の種類と方法です。ものが溢れているこの世界で、8億の人々が飢えています。そのうちの1,100万人はアメリカ人ですが、同時にアメリカでは食料品全体の4分の1が捨てられています。食料品を生産する土地は減っています。それとは反対に、飼料やテンブン質、糖質、エネルギー、そして工業用の原料を生産するための土地は広がっています。スーパーマーケットで見られる多様さは、もはや農地からではなく、食品産業の研究所から届けられるのです。世界には昨今、飢える人よりも太り過ぎの人のほうが多く存在します。

毎年何百万もの北や南の農家や田舎の人々の生計が、「成長せよ、さもなくば消えよ」という産業の原則の犠牲となっています。彼らとともに、共同体や伝統、ことば、文化、社会のネットワーク、そしてそれらが持つエコロジーや栄養、健康についての知恵が失われてゆきます。どれくらいたくさんの人が1ヘクタールの土地で栄養を摂ることができるかを考えてみたら、小中規模の農業や園芸ほど生産的なものはありません。しかし、1ヘクタールで働く労働者一人あたりの収入がどれほどになるかを考えてみれば、エネルギーや化学を大量に投入したり、遺伝子を組み換えたモノカルチャーに対して、このローカルな供給形態には出る幕はありません。

この産業的なモノカルチャーのシステムによって天然資源そして人的な資源つまり労働力が絶滅する以外に、オルタナティブはないのでしょうか？いいえ。ひとつどころか何千というオルタナティブがあります。何百万の人が、伝統的なもしくは革新的な形態で農業や食糧生産に従事しています。彼らは自然の多様性を尊び活用し、環境をいたわり、CO2排出量を減らし、地域の需要や生態学的な状況を鑑み、利害関係を公平に調整しています。

農家、女性、消費者、環境保護の各グループ、教会や開発援助の組織、研究者、自治体、地方政府、草の根イニシアティブ、社会運動家が世界中から集まり、多様性の共通の運動についての情報交換をします。彼らにとって「多様性の惑星 Planet Diversity」は、活動や議論の経験を交換する場であり、共有意義や戦略、視点を振り返る場なのです。

どんな人がやって来る？

70以上の国から約500名の参加者を見込んでいます。下記は既に参加を承諾いただいた方の一部です。

Percy Schmeiser(カナダ)・Victoria Tauli-Corpus, Tebtebba Foundation (フィリピン)・Tewolde Berhan Gebre Egziabher, 環境省(エチオピア)・Jakob von Uexkull, World Future Council(ドイツ)・Susanna Cenni, トスカーナ州農業大臣(イタリア)・Vandana Shiva, Navdanya Seed Movement, (インド)・Hans Herren, Millennium Institute(アメリカ)・Mamadou Lamine Coulibaly, Coordination Nationale des Organisations Paysannes, (マリ)・Hubert Weiger, ドイツ環境自然保護連盟(BUND)(ドイツ)・Ibrahim Abouleish, SEKEM(エジプト)・Christine von Weizsacker, Ecoropa(ドイツ)・Dominique Guillet, Kokopelli(フランス)・Friedrich-Wilhelm Graefe zu Baringdorf, European Parliament, AbL(ドイツ)・Edith van Walsum, ILEIA(オランダ)・Elisabeth Bravo, America Latina Libre de Tansgenicos(エクアドル)・Eric Holt-Gimenez, Food First(アメリカ)・Chee Yoke Ling, Third World Network(中国)・Lyudmila Stebenkova, Moscow City Duma(ロシア)・Mamadou Goita, IRPAD, COPAGEN, Forum Nyeleni 2007(マリ)・Annemarie Volling, Gentechnikfreie Regionen(ドイツ)・Maria Ilias Cakari, Asociacion de Productores de Maiz Organico de La Meseta P'Urepecha(メキシコ)・Mariam Mayet, African Centre for Biosafety(南アフリカ)・Marjorie Chola Chonya, Participatory Ecological Land-Use Managment(ザンビア)・Maya Graf, Nationalratin, 株式会社スイス遺伝子組み換え技術(スイス)・Miguel Altieri, カリフォルニア大学バークレー校(アメリカ)・P.V. Sathesh, Deccan Development Society(インド)・Parichart Suwanbubba, マヒドン大学(タイ)・Pat Mooney, ETC Group(カナダ)・Professor Gunter Altner(ドイツ)・Ryoko Shimizu, 生活クラブ生協連合会(日本)・Suprabha Seshan, Gurukula Botanical Sanctuary(インド)・Tonderai Andrew Mushita, Community Technology Development Trust(ジンバブエ)・V.S. Vijayan, Kerala State Biodiversity Board(インド)・Assetou Founé Samake, IRPAD(マリ)・Song Yang, Pesticide Eeo-Alternative Center Yunnan(中国)・Abile Romain Houehou, Ligue pour la Defense du Consommateur(ベナン)・Adriano Canci, Microbacias de la Cooperativa de Tecnicos Umitagri(ブラジル)・Agnes Lintao, SEARICE(フィリピン)・Ana Gyorgy, Women and Life on Earth(ドイツ)・Maria Isabel Manzur Nazal, Fundacion Sociedades Sustentables(チリ)・Vicente Guaman, Organizaciones del Pueblo Kichwa Saraguro(エクアドル)・Benny Harlin, 農業未来財団(ドイツ)・Bruno Heinzer, Greenpeace(スイス)・Cathy Rutivi, Consumers International Africa, (ジンバブエ)・Claire Bleakley, GE Free(ニュージーランド)・Daniel Maingi, Kenia Biodiversity Coalition(ケニア)・Louise Lutikholt, IFOAM(ドイツ)・Dehjeet Sarangi, Living Farms(インド)・Farida Akther, UBINIG(バングラデシュ)・Felipe Iniguez Perez, MAELA(メキシコ)・G. Agoramoorthy, Sadguru Water & Development Foundation(台湾)・Gabriel Fernandes, AS-PTA(ブラジル)・Guy Kastler, Réseau Semence Paysanne(フランス)・Georgina Catacora-Vargas, Tierra Viva(ボリビア)・Hartmut Meyer, GENET(ドイツ)・Ibrahim Ouedraogo, Inades Formation/Copagen(コートジボアール)・Georg Jansen, AbL(ドイツ)・Isied Dawoud, 水灌漑省(ヨルダン)

「問題というものは、それを生み出したのと同じ考え方では解決できない」(アルバート・アインシュタイン)

・Helena Norberg-Hodge, Int. Soc. for Ecology and Culture(イギリス)・Jacob Nellihanam, Richharia Campaign(インド)・Janani Hasda, Nari Rashmi Samaj, オリッサ州インドの女性連合(インド)・Javier Rivera, Red Ciudadana frente a los Transgenicos(エルサルバドル)・M. Coulibali, バマコ大学(マリ)・Javiera Rulli, Base Investigaciones Sociales(パラグアイ)・Jorge Rulli, Grupo de Reflexion Rural(アルゼンチン)・Lamine Biaye, Association de Producteurs de Semences Paysannes(セネガル)・Mclaku Woreda, Seeds of Survival(エチオピア)・Meriem Louanchi, AREA-ED(アルジェリア)・Paula Alvarez, Roa, Grupo Semillas(コロンビア)・Zung Ting(ミャンマー)・Rambati Pujari, Orissa Nari Samaj(インド)・Edith Lammerts van Bueren, Louis Bolk Institute(オランダ)・Reiner Braun, ドイツ研究者連合(ドイツ)・Rudolph Buntzel, プロテスタント教会開発サービス(ドイツ)・Ruth Tippe, "No patents on life!"(ドイツ)・Salvatore Cearelli, ICARDA(シリア)・Witoon Lianchamroon, Biothai(タイ)・Sevinj Mamma dova, Ganja Association(アゼルバイジャン)・Siegfried Herbst, IG gentechnikfreie Saat(ドイツ)・Ushakumari Jayakumar, THANAL(インド)・Ute Sprenger, VERN(ドイツ)・Victoria Kopeykina, Eremurus Club/ Biosafety Alliance(ロシア)・Werner Mueller, eco:risk(オーストラリア)・David Llewellyn, タスマニア州農業大臣(オーストラリア)

生物の多様性に関する条約とは？

5月に世界の190国以上の政府の代表者がボンに集まり、生物多様性の問題について交渉を行います。ドイツは、この生物の多様性に関する条約第9回締約国会議(5月19~30日)および生物の多様性に関する条約のバイオセーフティに関するカルタヘナ議定書第4回締約国会議(5月12~16日)のホスト国です。

生物の多様性に関する条約の目的とは、生物の多様性の保全とその持続可能な利用、そしてその利用から得られる利益の公正な分配です。生物の多様性には、自然の中に存在するもしくは飼育・栽培されるあらゆる動植物の種、微生物や菌類、それぞれの種内の多様性、地球上の生活圏や生態系の多様性が含まれます。2010年までに、現在のような劇的な種の喪失を止める、もしくは、少なくとも「有意義に減る」ようにすべきです。国連の予測によれば、すべての種の3分の1近くが、今世紀のうちに絶滅する危機にさらされています。

重要な争点は、遺伝資源へのアクセスの問題です。産業、特にバイオテクノロジー分野は、自然の生物の特徴を操作し、それに対する特許要求をふりがざします。自然の多様性を保全しその利益を知る先住民の共同体や農民の共同体を、これらの取引に参加させるべきです。なんと過去15年もの間、公正な分配のシステムについて意見の一致が得られることはありませんでした。こうして政府と政府が争っているうちに、生命に次々と特許が与えられ、バイオバイラシー(生物資源を巡る盗賊行為)が進んでいます。同様に、気候変動による損害や生物多様性へのアグロ燃料(バイオ燃料)の導入、不稔性の「ターミネーター」種子や遺伝子組み換え樹木の導入も議事日程に入っています。

バイオセーフティに関するカルタヘナ議定書では、遺伝子組み換え生物の輸出入の最低基準について定めています。組み換え方法は明らかにし、明記されるべきです。輸入国からはあらかじめ同意が必要です。世界の主要な遺伝子組み換え国家であるアメリカ、カナダ、アルゼンチンは、これまで議定書に参加しておらず、そこで定められた規則を認めていません。遺伝子組み換え種子によって引き起こされる損害の責任を誰が取るべきかが、ボンで交渉されます。そうした損害を補償するものは世界にはまだありません。工業国は2000年、2007年までに規則を作ることを発展途上国に約束しました。しかし2008年になっても意見の一致は見えてきません。産業界、しかもE.Uやドイツまでもが、拘束力のある損害賠償義務の規則を拒んでいます。

詳しい情報は：
生物多様性条約事務局オフィシャル・ウェブサイト：
www.cbd.int
生物多様性NGOネットワーク: www.biodiv-network.de
ドイツ連邦政府「自然同盟」: www.naturallianz.de

誰が、どこで、何を？ 5月12日(月)：デモとフェスティバル

デモは聖霊降臨祭の月曜日の朝にスタート(10時にライン川の中洲に集合)。テーマごとの山車やトラクター、横断幕にストリート劇場、動物、プラスバンド、そして各地からの視察団。引き続きフェスティバルでは、自分たちのスタンドを設置して、劇を演じたり、参加型アクションや子ども向けプログラムを企画したり、生産物の販売、ビデオや写真の上映、種子の交換や、音楽演奏、おいしい料理をふるまったり、テーマごとのパビリオン(女性、ラテンアメリカ、アジア、アフリカ、イタリア、じゃがいも、種子)に参加したりできます。提案がある方、ボンまでのバス運行を企画しようという方、宿泊場所が必要な方・提供できる方、スタンドを出したい方などは、下記までご相談ください。

在ボン 運営委員会

Tel: +49 (0)228 926 50 22 Fax: +49 (0)228 926 50 99
住所: c/o IFOAM, Charles-de-Gaulle-Str. 5, 53113 Bonn Germany
デモとフェスティバル: Zoe HeuschkelおよびLena Horlemann
demo@planet-diversity.org, festival@planet-diversity.org
ゲストおよび個人の宿泊先担当: Lena Horlemann,
+49 (0)228 926 50 21, unterkunft@planet-diversity.org,
現地運営: Anna Gyorgy, bonn@planet-diversity.org

5月13~15日：会議

火曜日から木曜日まで、6つの全体会議および30のワークショップ、20の短いプレゼンテーションで、イニシアティブや団体、アイデア、プロジェクト、世界中の歴史やコンセプトが話題となります。何かお手伝いいただける方は、ウェブサイトでお申し込みを教えてください。援助のお申し出やお問い合わせ、提案は下記までお願いします。

在ベルリン 会議事務局

Tel: +49 (0)30 275 903 09, Fax: +49 (0)30 275 903 12
住所: c/o Zukunftsstiftung Landwirtschaft, Marienstr. 19-20, 10117 Berlin Germany

会議運営:

Shannon von ScheeleおよびMaren Schweitzer,
info@planet-diversity.org
翻訳・ウェブサイト担当:
Charlotte Berthou, c.berthou@planet-diversity.org,
Tel: +49 (0)30 284 823 22

メディア&広報:

Mone Volke, presse@planet-diversity.org
Tel: +49 (0)30 284 823 25

Planet Diversity参加者によるその他のイベント:

Julia Bartal, juliabartal@planet-diversity.org,
Tel: +49 (0)30 284 823 25

多様性フェスティバル 国際聖霊降臨祭

五感が満たされ、意義のある聖霊降臨祭—多様性には、何千もの顔、歴史、味、飲み物、習慣、歌、楽しみがあります。各大陸の多彩な劇や音楽、植物、種子、アクション、踊りと音楽、ビデオやプレゼンテーションで、生命の多様性をお祝いします。大人も子どもも楽しめること間違いなし。14時から夜遅くまでライン川の中洲で「多様性フェスティバル」を祝います。あなたも何かできることはありませんか?食べ物や飲み物のスタンドを出したり、参加者が目を見張るものやみんなで遊べるものを提供してみませんか?だとすれば、できるだけ早くボンの事務所に連絡してください。そのほか、刺激的なものや人を魅了するものなども大歓迎です。

デモ

5月12日からは、世界の190カ国以上の代表者が3週間ほど、種の絶滅や遺伝子組み換え種子、種の規制、そして保護区域や農業の多様性について交渉するために、ドイツを訪れます。これは生き残りをかけた問題です。拘束力のない意図の説明以上のものが発表されるでしょうか?政府やメディアの代表者は、ここドイツや世界中の人々が期待していることに負す目や耳は持ち合わせているでしょうか?

多様性の保全や遺伝子組み換え種子に対する保護が気になる人はみんな、5月12日聖霊降臨祭の月曜日のデモにご招待します。

- ・ 十分に、多様で、健康な食糧に対する人権のために、アグロ燃料の調達や国際的な投資家のための原料としての農業の誤用に反対するために
- ・ 消費者や農家の自己決定のために、私たちの食品や環境を利用した遺伝子組み換え実験に反対するために
- ・ 種と農業の知恵の自由な交換のために、バイオバイラシーと生き物に対する特許に反対するために
- ・ 地域の多様性の保全のために、農業のモノカルチャーと世界的な農家の衰退に反対するために
- ・ 生物の多様性のために、ローカルで、フェアで、GMOフリーであるように!

各大陸からの参加者とともに、個性溢れる多彩なパレードと国際的なデモに参加してください。

私たちこそ多様なのです!

交渉の重点は次の問題です。誰が遺伝子組み換え種子による損害に対して将来的に責任を持つのか。ドイツ連邦政府を含む工業国のこれまでの答えは—誰でもない。損害賠償責務の補償なしに、遺伝子組み換え種子で利益を得る企業を自由にのさばらせておくのでしょうか?そんなことは決して許されてはなりません。

多様性の惑星 Planet diversity

c/o 農業未来財団 (Zukunftsstiftung Landwirtschaft)
Marienstr. 19-20, 10117 Berlin Germany
Tel: +49 (0)30 275903 09 Fax: +49 (0)30 275903 12
info@planet-diversity.org

運営

地域の運営委員会のメンバー:

GENET (European NGO network on genetic engineering, 50 members), GREENPEACE, FRIENDS OF THE EARTH, IFOAM (Int. Federation of Organic Agricultural Movements), ABL (Family Farmers Union, member of Via Campesina), Protestant Church Development Service (Evangelischer Entwicklungsdienst - EED), Initiative for GE-free Seeds and Breeding (IG Saatgut), Gene-ethic Network and VERN, Save Our Seeds (Foundation on Future Farming), Federation of German Scientists, German NGO Forum on Environment and Development and Heinrich Böll Foundation.

後援

財政的な支援に感謝いたします:

Swedbio, BMU, Mahle Stiftung, Brot für die Welt, Software AG Stiftung, Schweizerische Arbeitsgruppe Gentechnologie (SAG), Avalon, Blueridge-Institut, Rose-Luxemburg Stiftung, Misereor, Neumarkter Lammsbräu, Green Group in the European Parliament, Swissaid, stiftung Umverteilen, Stiftung Grassroots, Stiftung Internationale Begegnung der Sparkasse in Bonn, Stiftung Gemeinschaft. Anstiftung & Ertomis.

寄付

多様性の保全にはたくさんお金がかかります。海外からの参加者のための寄付やスポンサーを歓迎します。
口座名: Zukunftsstiftung Landwirtschaft,
口座番号: 30 005 405, GLS Bank, Bochum,
ドイツ銀行コード (BLZ): 430 609 67
IBAN: DE72 4306 0967 0030 0054 05
BIC: GENODEM1GLS

www.planet-diversity.org

planetdiversity
WORLD CONGRESS ON THE FUTURE OF FOOD AND AGRICULTURE BONN 12-16 MAY 2008

ローカルで

多様で

GMOフリーな

多様性の

ほし
,惑星Planet
diversity

2008年5月12日

於ボン

多様性デモ&フェスティバル

5月13~15日

国際会議

www.planet-diversity.org